

二〇一九年度

沖縄大学 一般入試（中期）

「国語」

問題用紙

・法経学部 法経学科

・人文学部 国際コミュニケーション学科

福祉文化学科

こども文化学科

・健康栄養学部 管理栄養学科

国語

※答はすべて解答用紙に書きなさい。

【問題】 つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

読書力とはどんな力でしょうか。前向きの姿勢で描かれていて、好きになれる人物や場所に出会えるものということなら、映像作品だっていいわけです。では、映像ではけつして代用できない読書の価値は何かというと、それは読まれる内容にあるのではなく、読むという精神活動そのものにあるということになります。

読むという精神活動に①ふくまれていて、映像メディアでは置きかえのきかないことは何かというと、それはまず書き言葉レベルの言葉を使う力であり、次に想像力であり、第三に全体を見渡して論理的に考える力だと思います。

なぜわざわざ「書き言葉レベル」の言葉と言いかということ、(1)話し言葉と書き言葉には根本的なちがいがあからずです。といっても、文体のちがいのことではありません。現代の小説には、日常会話の文体だけで②綴られたものもありますが、読者がそれを読んで小説として楽しめるのなら、それは立派な書き言葉です。いかに日常会話が親しみやすいからといっても、それをただ文字にしただけでは、小説にはなりません。日常会話というのは、その場の状況や話題についての共通の認識のうえに立ち、身ぶり手ぶり、表情、声音などの助けも借りながら、交わされていくものです。言ったことが誤解されたと思ったら、言葉を③補ったり言い直したりすることも可能です。文字だけによる書き言葉でそれとおなじことを伝えるためには、たくさん説明を補わなくてはなりませんし、誤解が生じないように前もって配慮することも必要です。親しい人への手紙なら、それでも④ひかく的かんたんですが、不特定多数が読む可能性のあるものを書くためには、よほどの配慮が必要となります。日常のおしゃべりのような文体を使ったり、『あしながおじさん』のように手紙だけを使ったりして、不特定多数の読者に理解できるものを書くと思うと、ふつうの物語の文体で書くよりも、さらに高度な工夫が必要なのです。

単に「言葉を使う力」なら、日常会話を交わしているだけでも身につきます。【A】、話し言葉しか使えなかつたら、親しい人たちとの日常のコミュニケーションには事足りても、手紙で用件を伝えたり、むずかしい問題について初対面の人に説明したりということになると、とたんに困ることになります。誤解を避けようと思えば、正確な言葉づかいをしなくてはなりませんし、⑤語彙も豊富でないといけません。そういう言葉を身につけるには、そういう言葉で書かれたもの、すなわち本を読むのがいちばんです。本といっても、絵に頼った雑な本では役に立ちませんし、映像メディアではむしろためです。映像作品にも「書き言葉」によるナレーションが使われることはありますが、それはほんとうの意味での「書き言葉」とは言えませんし、動く映像を見ると、どうしても視覚のほうに意識が奪われてしまうので、言葉のトレーニングにはなりにくいのです。

想像力とはファンタスティックなことを思い描く能力ではなく、その場のないもののイメージを思

い浮かべる能力です。思い浮かべる対象は「もの」だけではなく、人間の感覚、感情、考えなども想像の対象になります。想像力を働かせながら物語を読むとき、私たちは、その場の⑥じょうけいだけでなく、登場人物が感じ、考えているあらゆることを、自然に思い浮かべています。場面によっては、向かい合っている一人の心のなかには不安があり、もう一人の心のなかには期待があつて、両者が見ている世界の色合いが大きく⑦隔たっていることを理解していたりもします。

(2) これは言うまでもなく、生きていく上で大きな意味を持つ力です。コミュニケーションをとるとき、相手の目には物事がどう見えているかが推測できれば、ひじょうに役に立ちます。相手の微妙な感情や隠し持った考えを推測すると、かなり高度な想像力が必要ですが、用件を伝えたり説明をしたりするとき、相手がどんな情報が必要としているかを推しはかるくらいなら、単に相手の視点に立つてみることでできればじゅうぶんです。ところが、基本的な想像力が身につけていないと、それだけのことがなかなかむずかしいのです。

想像力は、この先起こりうることを予測するのにも役立ちます。さまざまな知識や、論理的思考力などを⑧そうどういんして、頭のなかに未来図を描き出すのは、想像力です。いまは冬だけれど、夏になれば⑨どう変わるかが想像できれば、思わぬ事態になるのを⑩防げるかもしれません。

【B】想像力は、他者とかかわっていくためにも、いろんな仕事をしていくためにも、ひじょうに役に立つどころか、必要不可欠と言っているいい力なのです。

読書は、この想像力を鍛えるのに、きわめて⑪こうか的な方法です。それは、想像力が働かなければ、そもそも物語を読み続けていくことができないからです。映像メディア育ちの子どもたちは、本を読むのはやっかいだと言いますが、やっかいだからこそトレーニングになるのであつて、⑫挿絵をどんどん増やしてやっかひさを取り除いたのでは意味がありません。それでは、健康のためにハイキングに出かけながら、歩くのはやっかいだからとケーブルカーに乗るようなものです。もちろん、読むことに困難を感じている子どもたちには、いろんな形で手を貸さなくてはなりません。でも、困難をすべて取り除いてやるのではなく、適度な菌ごたえのあるものを手渡し、想像力を働かせながら読み進めていくことの楽しさを味わわせてあげてください。

読書力の三つめの要素として、全体を見渡して論理的に考える力をあげました。これが読書とどう関係するかを説明するために、まずは映像メディアとのちがい、それからコンピューターとのちがいを見ていきたいと思います。

映像は本に比べて、はるかに大きな力で見る者をとりこにします。動くイメージ、音声、音楽などが一体となった力に抵抗するのは、大人でさえむずかしいのですから、子どもはなおさらです。

【C】映像は、映像の側の時間の流れに、見る者を従わせます。ビデオなら早送りや巻き戻しもできないわけではありませんが、本を読むときのように自由に立ち止まったり、もとにもどつてみたり、想像力が働きやすいスピードを選んだりというわけにはいきません。

そんな映像を見ながら、物事を筋道立てて考えるところのは、ひじょうに困難です。たとえ気になることがあつても、考えようとするうちにも映像は先へ先へと進みますから、それも見ていなければならず、気になったこともじきに忘れてしまいます。ところが本の場合は、気になれば立ち止まって考えたり、前にもどつてたしかめたりできます。

【D】コンピューターを扱うことと本を読むこととのあいだには、どんなちがひがあるのでしょうか。子どもがコンピューターを扱っていると、なんだか頭がよさそうに見えて、大人は喜んでしま

いがちですが、それはどうやら大まかじいのです。ここでは、コンピューターというのは全体を見渡すということのできない道具だということだけをお話ししておきたいと思います。

コンピューターの操作というのは、基本的に、目の前に差し出された選択肢のなかからどれかを選ぶことの連続です。その最たるものが、ロール・プレイング・ゲーム（RPG）で主人公の仲間が倒れたときに、「連れていく」か「置いていく」か「治療のための薬草を探しに行く」かを選んだりする。「三択」の類でしょう。私たちが現実に行動するとき、とりあえず思いつく選択肢は二つ三つしかなくとも、「それ以外の選択肢は原理的にありえない」ということはまずありません。発想の⑫てんかんをすれば思いがけない解決策が見えてくるというのは、よくあることです。しかし、パソコンの画面で次へ進むときには、たとえ「三択」が「三十択」であろうと「それ以外の選択肢があるかもしれない」可能性は、考慮する必要がないのです。

【E】コンピューターでも、むずかしい問題を解決しようと思ったら、先々のことまでを全体的に考えながら、目の前の選択肢にのぞむことが必要でしょう。しかし、そんなふうを考えるためには、コンピューターの操作に気をとられないで、自分が⑬かかえている問題自体を意識の中心に置くように、よほど気をつけなくてはなりません。コンピューターというのは、原理的に、「いまあなたに⑭課せられているのは、この選択肢のなかから一つを選ぶことだけです。あとのことはまたあとで考えてください」と、私たちを誘惑し続ける機械です。それに身をゆだねていけば、たいして考えなくても物事が進行するのが心地よくて、私たちはコンピューターにはまってしまい、それに主導権を奪われることになるのではないのでしょうか。

こんなにも(3)誘惑的なコンピューターを相手に、人間のほうが主導権を握り続けるためには、自分が直面している問題の全体像をしっかりと把握し、いまそのなかのどこにいいのかをつかんでおくことが重要です。そういう力を身につけるためには、実体のある本というものとのつきあい、【F】、それらを自分の使い勝手に合わせて並べた本棚というものとのつきあいが、大きな役割を果たすのではないのでしょうか。

（脇明子 2005 『読む力は生きる力』岩波書店より。ただし、一部改変した。）

問一 傍線部①から⑭の漢字にはひらがなで読みをつけ、ひらがなは漢字に直しなさい。

問二 【A】から【F】にあてはまるものを次のなかから選んで入れなさい。

【A】さらには、もちろん、しかし、しかも、要するに、では【

問三 本文中に傍線部(1)「話し言葉と書き言葉には根本的なちががある」とあるが、それはどういうことですか。一二〇字程度で説明しなさい。

問四 本文中に傍線部(2)「これは言うまでもなく、生きていく上で大きな意味を持つ力です」とあるが、それはどういうことですか。主語を明らかにしつつ一〇〇字程度で説明しなさい。

問五 本文中に傍線部(3)「誘惑的なコンピューター」とあるが、それはどういうことですか。適切なものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 子どもがコンピューターを扱っていると、なんだか頭がよさそうに見えて、大人は喜んでしまいがちだ。

イ コンピューターは、いま選択肢のなかから一つを選ぶことだけを要求し、あとのことはまたあとで考えればよしとする楽で心地よいものだ。

ウ コンピューターは、使用者の強い意志で使用時間を制限しなければ、ついハマってしまい依存してしまふ。

エ コンピューターは、使用する自分が直面している問題の全体像をしっかりと把握するために、必要不可欠なものだ。

問六 この文章の要旨を六十字程度でわかりやすくまとめなさい。

問七 この文章についてのあなたの意見や感想を二〇〇字程度で書きなさい。